

保健だより 10月号

～こどもの感染症と感染対策～

今月の情報は
小檜山保健師

日中は過ごしやすくても、朝晩は肌寒いと感じる日が増えてきました。町内のこども園及び小中学校（以下、学校等）では熱、咳等の体調不良で休んでいるお子さんが増えつつあります。今回は町内の学校等における感染状況と、感染対策についてご紹介します。

◆ 町内の学校等における感染状況 ◆

9月末時点の学校等で感染が確認されている疾患はマイコプラズマ肺炎、手足口病、溶連菌感染症です。これら3つの疾患の主な感染経路は飛沫感染、接触感染です。

①マイコプラズマ肺炎

頑固な咳を伴う呼吸器感染症。小児や若い人に比較的多い病気です。肺炎マイコプラズマという細菌に感染することで起こります。発熱や全身のだるさ、頭痛、咳などの症状が見られ、熱が下がった後も咳が3～4週間続くのが特徴です。

②手足口病

こどもを中心に流行し、口の中や、手足などに水疱を伴う複数の発疹が出る病気です。コクサッキーウイルスやエンテロウイルスに感染することで起こります。

発熱はあまり見られませんが、出ても38℃以下のことが多く、手足に2～3mmの水疱を伴う発疹が出るのが特徴です。

③溶連菌感染症（溶連菌性咽頭炎）

主にのどに感染して、咽頭炎や扁桃炎を引き起こす病気です。A群溶血性連鎖球菌という細菌に感染することで起こります。

発熱、莓舌（舌に莓のようなツブツブができる）、咽頭痛・咽頭発赤（のどが真っ赤になる）等の症状がみられるのが特徴です。この細菌は咽頭炎だけでなく、伝染性膿疱疹^{のうかしんしょうこうねつ}、猩紅熱、劇症型溶連菌感染症といった別の病気を引き起こすこともあります。

◆ 薬を飲む量や期間を守りましょう ◆

これらの感染症のうち、手足口病に特効薬はありませんが、マイコプラズマ肺炎と溶連菌感染症は細菌感染症であるため、抗菌薬が処方されます。どの薬も用法用量を守ることが大切ですが、特に抗菌薬は症状が治まっても飲みきることが大切です。

● 薬の効き方 ●

薬が口から入る

↓
胃や小腸で
吸収される

胃の中でしっかり溶かすために、水や白湯など胃酸の働きに影響がないもので飲ませます。

↓
血液の流れに乗って病気場所に届く

↓
肝臓で体に害のないものに変えられ、
腎臓で尿になって排泄される

特にこどもは、胃や小腸、肝臓、腎臓など薬が関係する体の部分が未熟です。そのため薬の量を決めるのは、こどもの年齢と体重です。

病気を治すためには、常に必要な量の薬を血液の中に保っておく必要があります。そのため薬は指示通りの間隔で飲むことが大切です。

薬を与えるときにやってはいけないこと
×飲み忘れたからと一度に2回分与えること
×兄弟に処方された薬を与えること
×薬が効かないからと指示より短い間隔で与えること

◆ 日ごろから感染対策を ◆

感染対策は手洗い、うがいの徹底につきます。手を洗うときは普段から流水と石けんによる手洗いをすることが大切です。感染症にかかった場合は、家族間でもタオルの共用は避けるとなおいでしょう。咳が出る場合は、こどもの年齢にもよりますがマスクを着用するなど咳エチケットを守ることが心がけましょう。

【連絡先 猪苗代町こども課 23-4105】